

# 滋賀県高島市に残る茅葺き民家の現状とその維持存続に関する調査研究

福井 喜一

キーワード：滋賀県高島市、茅葺き民家、屋根葺き技術、屋根葺き道具

## 1. 研究の背景と目的

滋賀県高島市において茅葺き民家は高度経済成長期以降、その数を減らし、現在では山間部を中心に点在して残る数軒のみとなっている。また、同時に地域に根ざした在来技術としての茅葺きができる職人も減少し、平成 25 年にマキノ町の茅葺き職人、細木政一氏が引退したのを最後に、高島市に現役の茅葺き職人はいなくなった。高島市において茅葺き民家とその技術は消滅の危機にある。

そこで、本研究では高島市における茅葺き民家とその技術の維持存続に資するため、茅葺き民家の現状を把握すると共に、細木政一氏への聞き取りを基に地域特有の屋根葺き技術を記録し、その特徴を明らかにする事を目的とする。

## 2. 茅葺き民家の現状

茅葺き民家の残存数を把握するため現地踏査を行った。その結果、高島市に残る茅葺き民家は朽木 7 軒、今津町 6 軒、マキノ町 8 軒の計 21 軒であり、その内 11 軒が住居、6 軒が空家、2 軒が資料館、1 軒が大学の実習棟、1 軒が地域の交流施設であった。話を聞く事ができた 8 軒の茅葺き民家居住者に今後の意向について尋ねたところ、5 軒が「次の葺き替えではトタンを被せる、又は被せるのも仕方が無い」、2 軒が「出来る範囲で残していこうと思っているが、自分達の代で終わりだろう」との答えであった。

## 3. 屋根葺き技術

屋根葺き技術についてマキノ町の元茅葺き職人、細木政一氏へ聞き取り調査を行った。かつてマキノ町では若狭流と広島流の二つの流派が見られたが、後にマキノ町の雪の多い気候風土に適した若狭流の技術が主となっていった。若狭流と広島流の違いは平葺きに顕著に見られた。また、屋根葺き道具の中でも最も地域性の現れるコテ（茅を叩き揃えるための道具）は、若狭流のものと同形や使用方法が共通しており、ここにも若狭流の影響が見られた。棟は下棟、マクラ、杉皮、押さえの材で構成され、マクラにより棟が屋根面より一段高くなる点、外から見ると棟の小口に白い菱形が浮かび上がる点にその特徴があると言える。

## 4. 結論

高島市における茅葺き民家の維持存続は、市内に現役の茅葺き職人がいなくなった事もあり、今後ますます困難となっていくと思われる。一方で本調査によりマキノ町において茅葺き民家の形態だけでなく、それを支える技術や道具といった細部においても地域性が見られた。茅葺き民家が失われるという事は、そういった細部に宿る地域性も同時に失われることになり、一度完全に失われると再現する事は困難となる。本論文が、高島市の茅葺き民家とその技術を維持存続する一助となれば幸いである。